

◎景気ウォッチャー調査[2023年6月]

2023年6月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を1.3ポイント下回る52.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「あらゆる商品価格の高騰が景気の回復を妨げている。」(商店街)、「全国旅行支援の予算を消化したので来客数が激減している。」(観光型ホテル)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.6ポイント下回る51.1となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「人の動きが出てきて、個人消費活動も活発である。」(繊維工業)、「想定外の受注を含め、ある程度の受注のめどが立っている。また、物価高騰に対する価格転嫁も進んでいる。」(建設業)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.7ポイント上回る53.7となった。

雇用関連は、「新規求人数は前年比で7.5%増加、有効求人倍率も前年比で0.09%増加している。産業別では、運輸業、販売業、宿泊業、飲食サービス業などの新規求人数が前年比プラスに転じている。」(職業安定所)、「人材紹介業務において、求職者からの問合せ件数が約114%上昇しており、今後も夏に向けて増加する。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を4.4ポイント上回る58.8となった。

	6月	5月	前月差
合計	52.4	53.7	-1.3
家計動向関連	51.1	54.7	-3.6
企業動向関連	53.7	50.0	3.7
雇用関連 (参考値)	58.8	54.4	4.4

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を1.8ポイント下回る53.3となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」の回答の割合が減少し、「食品を中心に商品価格の上昇が続いており、客の買い控えや特売商品の購入が進んでいるため、今後も景気は上向かない。」(スーパー)、「物価上昇による買い控えがある。」(通信会社)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.0ポイント下回る53.0となった。

企業動向関連は、「良くなる」の回答の割合が減少し、「受注量や販売量の動きから、景気は良くならない。」(一般機械器具製造業)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.9ポイント下回る54.4となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「毎年夏場は求人、求職者共に減少傾向にある。」(人材派遣会社)、「地元の大型店舗の閉店が影響してくる。」(職業安定所)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を8.9ポイント下回る52.9となった。

	6月	5月	前月差
合計	53.3	55.1	-1.8
家計動向関連	53.0	54.0	-1.0
企業動向関連	54.4	55.3	-0.9
雇用関連 (参考値)	52.9	61.8	-8.9